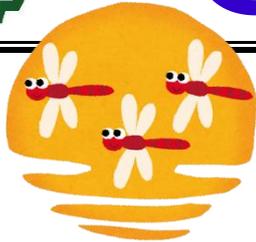


ひがし風



「実りの秋～読書のすゝめ～」

校長 伊藤 誠

9月に入っても連日の猛暑日で、外での運動ができない日もありましたが、朝夕はだいぶ過ごしやすくなり、秋を感じる頃となってきました。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期ですので、くれぐれも体調管理にご留意ください。

さて、9月28日（土）に無事運動会を行うことができました。昨年度に引き続き、多くの保護者・地域の皆様にご参観いただく中で実施できたこと、とてもうれしく思います。雨が心配される中での開催となりましたが、どの学年も1時間1時間の練習の成果を発揮し、立派な態度で臨むことができました。特に1・2年生「これがわれらの新時代!」、3・4年生「よさこいソーラン2024」、5・6年生「∞Infinity∞」の表現運動は、子どもたちが一致団結して、明るく元気に、力強い演技を行っていました。保護者の皆様には、後片付け、体調管理等々、さまざまな面でご支援・ご協力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、昼と夜の時間がほぼ同じ長さだった秋分の日を境に、徐々に日の暮れるのが早くなってきました。農業や林業といった戸外での仕事を中心だった頃は、日暮れとともに仕事終了し夜が長く感じられたことから、「秋の夜長」という言葉が生まれたそうです。しかし、現代は照明器具が発達し、夜でも昼と同じような生活をしているので、なかなか実感するのは難しいかもしれませんが・・・。「秋の夜長」という言葉から連想されるのは、「家族」や「一家の団らん」ではないでしょうか。「秋の夜長」を、テレビやゲームのスイッチを切り、会話を楽しんだり、読書をしたりするなど、家族の団らんに時間を使うことをお勧めします。

先日、「国語世論調査」で1か月に本を1冊も読まない人が初めて5割を超える（62.6%）という結果が文化庁から発表され、改めて近年指摘されている読書離れが浮き彫りになりました。10月27日（日）からは、「読書週間」が始まります。

この機会に、読書の時間を共有することで、親子のかかわりを深め、読書の幅を広げることをねらいとした親子読書に取り組んでみてはいかがでしょうか。親子読書の仕方としては、「親子で同じ本を読む」「同じ時間に親子で別々の本を読む」「1冊の本を交互に読む」「親から子どもへ、子どもから親への読み語りをする」などが挙げられます。ともに読書に親しむことで、子どもも親も心が豊かになり、絆が深まる時間になれば幸いです。けやきっ子のみなさん、大いに本を読みましょう。

「読書の秋」の他にも、「芸術の秋」「スポーツの秋」・・・この時期は何事にも取り組みやすい気候です。目標を決め、それに向けて実行・努力し、「実りの秋」にしてほしいと思います。

